



(テーマ) 中学校 「生徒一人一人の資質を高め、自治的・主体的に社会に参加する集団を育成するための指導のあり方」

日立市立久慈中学校

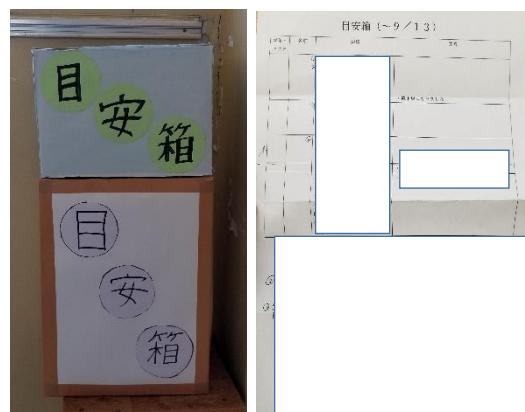
1 あいさつ運動

久慈中学校の生徒会は、中央委員会と協力して、あいさつ運動を実施しています。絆づくりプロジェクトの一環として、「絆のぼり」を掲げながら、月曜日から金曜日まで、毎日あいさつをしています。毎朝子ども達が元気にあいさつをする姿は、とても気持ち良く、地域の方の評判も良いです。



2 目安箱の設置

昨年度からの引き継ぎで、校則の改定について話し合いが続いています。今年度は、靴下の色や学校指定のTシャツの色に黒色が認められました。黒の靴下をはく生徒が少しずつ増えており、校則や時代の変化を感じています。また、目安箱を設置して生徒の意見を集約し、生徒会と先生で話し合いをしています。生徒総会では話し合いをした内容をもとに、校則の改定に向けて全校生徒で話し合いをしていきます。生徒一人一人が「学校の活動に参加している」という意識や興味が高まることを目標としています。



3 いじめ撲滅への思い

毎年、文化祭では「いじめ撲滅スローガン」を作成し、いじめ撲滅宣言をします。学級委員が代表でクラスのスローガンを発表します。生徒会選挙では、「いじめをなくしたい」を目標に掲げる生徒会立候補者が多くいました。いじめに対する関心がとても「高い」ということは、いじめが身近な問題として「ある」ことを意味しています。なぜ人の社会にはいじめが存在するのか、根本から考えています。生徒一人一人が「いじめ問題について深く考える」という意識や興味が一層高まることを目標としています。



4 成果と課題

学校活動に生徒が自ら参加するようにするには、「自分の行動や発言が学校を変えるきっかけになる」ということが明らかになる必要がある。生徒が「自主的・自律的に活動できる」ように育成するためには、「先生や学校、保護者も同時に変わることを求められる。この課題が解決されない限り、私たちが望む方向に生徒たちが成長する可能性はひろがらないと感じた。